

授業概要

私たちが生きる社会の1つのベースである経済活動について、経済学の基本である「マクロ経済学」「ミクロ経済学」のそれぞれ入門に位置するところを学び、経済学的な思考方法を習得することを目的とする。前半ではマクロ経済学（一国全体の経済活動）の入門を学び、経済成長や景気変動、私たちの日々の生活にも直結しやすい雇用・失業について理解を深める。後半ではミクロ経済学（個人・家計と企業の行動原理）の入門を学び、競争市場の効率性について理解を深める。数式やグラフを用いて経済学の基礎理論を、一連の授業を通じて学修することで“世の中”の事象をより深く理解し、2年次～4年次での専門知識を修得するため、大学で社会科学を学ぶ基礎固めとする。

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス（この科目で学ぶこと、授業の基本的な流れ、履修するうえでのルール説明）
- 第 2 回 需要と供給の基本と均衡
- 第 3 回 需要と供給の変化
- 第 4 回 マクロ経済学(1) 物価の測り方とGDP（国内総生産）
- 第 5 回 マクロ経済学(2) 金融市場・ファイナンス
- 第 6 回 マクロ経済学(3) 労働市場
- 第 7 回 マクロ経済学(4) 消費関数、国民所得の決定
- 第 8 回 マクロ経済学(5) 均衡国民所得
- 第 9 回 中間試験
- 第 10 回 ミクロ経済学(1) 弾力性
- 第 11 回 ミクロ経済学(2) 価格規制
- 第 12 回 ミクロ経済学(3) 課税
- 第 13 回 ミクロ経済学(4) 余剰
- 第 14 回 ミクロ経済学(5) 消費者理論（効用最大化）
- 第 15 回 ミクロ経済学(6) 生産者理論（費用のさまざまな尺度）
- 第 16 回 期末試験

到達目標

大学4年間の学修のベースとなる基礎的な経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学）を学び、大学生活だけでなく社会人生活でもその基本的な知識を活かし、自ら考え、判断し、論理的に表現できる能力を身につけることができる。

履修上の注意

- (1) ふだんから経済に関わるニュースに関心を持つ
- (2) 授業の基本的な流れは、①小テストを受け、②演習問題のヒントを理解し、③自ら演習問題を解く
- (3) 第3回～第8回・第10回～第15回は授業冒頭に前回の授業内容を確認する小テストを実施する
- (4) 第1回にこの科目の方針などを詳細に説明するので、必ず参加されたい
（ただし、第1回参加を履修上の条件としない）
- (5) 経済経営学部学生には必修科目である

予習・復習

- ・復習：Webにアップされた演習問題の正答PDFファイルを確認し、次回の小テストに備えて学習した内容を見返し、誤答した場合は再度解いてみる（80分）

評価方法

①中間試験の得点率×0.32+②期末試験の得点率×0.32+③小テスト合計の得点率×0.36の合計100%で成績評価する。成績評価には、出席ポイント（≒小テスト受験）10.0pt以上が必要条件である。

テキスト

必携のテキストは用いない。参考書籍を第1回に紹介する。